

行動規範

食育を中心とした社会貢献

私たちは、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図るとともに、食を通じた人々の健康に貢献します。

キューピーグループのアプローチ

核家族化、共働き、ひとり親家庭の増加などにより子育ての環境は大きく変化しています。また近年、子どもの貧困といった問題も表出し、多面的な子育て支援の必要性が高まっています。子どものうちに健全な食生活を確立することは、豊かな人間性を育むことにもつながり、生涯にわたる健康の基礎となります。一方、高齢化が進む中、健康寿命を延ばすことで、個人の生活の質をあげることや社会的損失を防ぐことも大きな社会的課題となっています。

キューピーグループは、子どもの心と体の健康や、健康寿命の延伸などの課題解決をめざし、事業活動とともに食育を中心とした社会貢献活動を通じ、より良い社会の実現に貢献します。

食育への取り組み

食育への考え方

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の楽しさと大切さ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キューピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キューピーみらいたまご財団」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。

独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

TOPICS

キューピーみらいたまご財団

“食育活動”および“子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくり”に取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。初年度となる2017年度は20団体への助成を決定し、2017年10月、キューピー渋谷オフィス2階ホールにて授与式と講演会を開催しました。子ども食堂などの運営や支援に携わる方々から、「地域の居場所づくり講座」として、食を通じた人と人のつながりの大切さについて講演いただきました。

 キューピーみらいたまご財団ホームページ



各助成団体の出席者とキューピーみらいたまご財団の
評議員および役員

子どもたちへの取り組み

食に対する正しい知識は、豊かな食生活に欠かせないものです。キューピーグループは、未来を創る子どもたちに食の大切さを伝えるとともに、食を通じて心と体の健康を育む活動を積極的に展開しています。

マヨネーズ教室

小学生を対象とした食の楽しさと大切さを伝える出前授業「マヨネーズ教室」を開催しています。2017年度は、教室を運営する講師の社内資格「マヨスター」に認定された従業員数は累計で213人（2017年11月末現在）になり、全国延べ328校でマヨネーズ教室を開催しました。保護者の方々からは、マヨネーズ教室をきっかけに「食に関する会話が増えた」「食・料理への関心が高まった」という声をいただいています。

 キューピーホームページ
「マヨネーズ教室」



小学校への出前授業「マヨネーズ教室」の様子

家族でわくわくクッキング

“会話もごちそう”になる食卓づくりのお手伝いとして、2010年より料理教室「家族でわくわくクッキング」を開催しています。小学生とその父親が、講師であるフランス料理の三國清三シェフの熱心な指導を受けて本格的な料理に挑戦します。完成した料理は、招いたご家族とともに会話を弾ませながら召し上がっていただきます。2017年度は4回実施し、計32組のご家族にご参加いただきました。

 キューピーホームページ
「家族でわくわくクッキング」

まめ活®（豆をまめに食べる活動）

「豆」は栄養バランスがよい食材ですが、食べられていない子どもも多く、食感が苦手などを理由に、学校給食で食べ残しが多い食材です。キューピーは子どもたちに「豆」のよさを伝え、親しんでもらいたいと考え、2016年より小学校に「豆」の食育授業の教材を提供しています。

また、豆を取り入れた学校給食の献立提案を行い、豆を食べる食習慣の形成を支援しています。

朝食プロジェクト

消費者庁との官民一体プロジェクト「家族であつまる朝ごふん」に参画しています。子育てファミリーに向け、子どもの健やかな成長をめざし、朝5分の朝食を通したコミュニケーションを提案しています。

食を通じた「子どもの居場所づくり」への支援

日本の子どもの貧困率は13.9%*と依然として高く、学習支援、心身の成長のための栄養摂取、「食」に関する正しい理解の促進が重要になっています。キューピーは2017年度、認定NPO法人フードバンク山梨が開催する学習支援イベント「フードバンクこども支援プロジェクト」にて料理体験などの食育活動を実施したほか、調布市や渋谷区でも子ども支援活動に参画しました。

* 厚生労働省 2016年国民生活基礎調査より

TOPICS

マヨネーズ教室を受講した児童の食への関心の改善

マヨネーズ教室に参加した小学生の保護者に対し、千葉大学大学院園芸学研究科の協力を得てアンケート調査*を行っています。「野菜の好き嫌い」「食・料理への関心」「栄養・食生活の会話」について、受講前と受講後での変化を調べたところ、それぞれに受講後改善が見られました。今後も食の楽しさと大切さを伝え、家族の会話にもつながる食育活動を推進していきます。

* 石田貴士, 大江靖雄, 櫻井清一. (2017). 食品企業の食育活動の役割とその効果-マヨネーズ教室を受講した児童の保護者に対するアンケート調査の分析-食と緑の科学, 71, 29-35

* 回答総数425件

 キューピーホームページ
「ニュースリリース 2018年 No.11
小学校へ出前授業「マヨネーズ教室」 2017年度活動報告」

見学施設での取り組み

オープンキッチン(工場見学)

キューピーは「オープンキッチン」をテーマに1961年から一般の方々の工場見学を開始しました。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけで工場見学をスタートしています。現在では、地域の産業を学ぶ場として年間約60,000人の見学者を受け入れています。全国5つの工場で実施しているオープンキッチンでは、商品の製造工程を見学できるだけではなく、見学後に試食会を行い、メニュー提案を通じて商品の使い方・楽しみ方をお伝えしたり、夏休みの自由研究イベントも実施しています。キューピーのものづくりの姿勢や想いをお伝えし、食の安全・安心を感じていくとともに、食の楽しさや大切さをお伝えしていきます。

オープンキッチンを実施している5つの工場

五霞工場	(茨城県猿島郡五霞町)
富士吉田工場	(山梨県富士吉田市)
挙母工場	(愛知県豊田市)
神戸工場	(兵庫県神戸市)
鳥栖工場	(佐賀県鳥栖市)

 キューピーホームページ
「オープンキッチン(工場見学)」

マヨテラス

2014年6月に仙川キューポート(東京都調布市)内にオープンした見学施設「マヨテラス」は、「キューピー マヨネーズ」の歴史や特長に加え、キューピーグループのものづくりへの姿勢や想いをお伝えしています。2017年度は、約20,000名のお客様にご来場いただきました。

季節ごとのイベントや食育イベントなどもグループ会社と協力して開催し、お客様にさまざまな食の情報を提供しています。2017年からは離乳期の食の悩み解決を目的に育児食イベントを悩みの異なる初期、中期、完了期別に開催しています。

 キューピーホームページ
「マヨテラス」



育児食イベントでベビーフードの開発担当者が
お母さんの相談にのっている様子

海外における食育活動

キューピーの海外グループ各社は、ビジネスを展開する地域の方々の「生活と健康」に貢献することをめざして、さまざまな食育活動を展開しています。

マレーシア

- 同国国立大学と共同で、健康者がマヨネーズを食べてもコレステロール値に変化が無いことなど、正しい知識を持っていただく活動を展開しました。また、小学生を対象としたサンドイッチ教室を継続的に開催するなど、野菜摂取を通じた肥満児童低減活動を行っています。

中国

- マレーシアと同様に、上海海洋大学と共同してコレステロールに関する正しい知識の啓発活動を行っています。また、共同研究室を通じて、栄養科学・食品科学の研究技術者の養成も行っています。なお2017年度の中国2社(北京・杭州)への一般工場見学受入実績は4,600名でした。

ベトナム

- ベビーフードを日本から輸入するとともに、離乳・離乳食に関する基礎知識の啓発活動を行っています。また、卵殻カルシウム配合の栄養強化食品の販売を開始し、ハノイ国立研究所と協力してベトナム人の体格・骨密度の向上など、健康維持・促進に取り組んでいます。

 p12 卵殻カルシウム配合の栄養強化食品

食に関する情報提供

キューピーグループは、子どものみならず、あらゆる世代に食の大切さを伝えることで、広く健康増進に貢献する活動を展開しています。

講演会活動

食と健康についての正しい情報の提供を目的として、1984年から講演会活動を開始しています。2017年度から講演プログラムを充実させ、「野菜を楽しみもっと健康に!」のプログラムを新設して計3テーマを開始しています。近年は大人を対象にした「食生活に関する講演会活動」の要望が増えており、2017年度は159回の講演を実施しました。

キューピーニュース

食と健康に関する月刊情報誌「キューピーニュース」を1973年から毎月発行しています。第一線で活躍する研究者や専門家の方々に執筆いただき、消費者行政や消費者団体、栄養関連の先生など、毎月約5,000部を配布しています。

 キューピーホームページ
「キューピーニュース」

メディアライブラリー活動

1975年から食物アレルギー、高齢者応援、子育て支援など、食に関するビデオやDVDを学校や消費生活センターなどに無料で配布しています。

 キューピーホームページ
「メディアライブラリー活動」

地域社会への取り組み

社会貢献活動の考え方

キューピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献をしていきたいと考えています。地方自治体や地域のNPOなどとの協働を通じて、地域社会との共生につながる活動に取り組んでいます。

渋谷区との取り組み

キューピーは、渋谷区と2016年12月、相互の協働のもと、地域社会の課題解決を目的とした包括連携協定である「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定(SSAP)」を締結しました(協定期間は2019年3月31日まで)。本協定を通じて、新たな取り組みを渋谷区と協働して推進し、社会・地域とのより良い共生を図ります。

協定内容

1. 食育や子どもの貧困課題の解決に関する支援
2. 超高齢社会における健康増進領域の支援
3. 環境領域の課題(食品ロス含む)に関する研究と解決策の提供
4. 文化・芸術振興における支援、企画立案、情報発信施策の企画開発
5. ダイバーシティの実現に向けた研究や啓発活動への支援
6. 人材開発や研修プログラムにおける人的交流

福島県との取り組み

キューピー仙台支店 郡山営業所では、「福島の食卓に笑顔を取り戻そう!」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施しています。JA全農福島と地元の農園との協働で、福島県の代表的な野菜であるきゅうりの苗を県内の小学校に配布し、収穫時期に合わせてマヨネーズ教室を開催して、自分たちで育てたきゅうりを手作りマヨネーズで皆と一緒に食べる体験の場を提供しています。食の楽しさや野菜のおいしさを伝えるとともに、地域との共生を図っています。

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。キューピーグループは、ベルマーク運動が開始された1960年より公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。

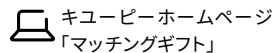
 公益財団法人
ベルマーク教育助成財団



マッチングギフト制度「QPeace」

キューピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「QPeace(キューピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。

2017年度は、グループ25社より約630名の従業員が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする18の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。

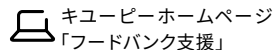


キューピーホームページ
「マッチングギフト」

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約646万トン(平成27年度推計：環境省及び農林水産省)あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちが数多く存在しています。キューピーグループは、フードバンク活動*を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」を2007年から支援し、マヨネーズやドレッシング、ジャムなどを寄贈しています。2017年度は、キューピーグループ4社国内8事業所から各地域の5フードバンク団体に寄贈しました。

* フードバンク活動: 食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動



キューピーホームページ
「フードバンク支援」

国内グループ会社の教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が設立されています。給付型の奨学金制度で、毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

海外グループ会社での地域貢献活動

(キューピータイランドの事例)

キューピータイランド(KEWPIE (THAILAND) CO.,LTD.)では、「環境」「子ども支援」「地域貢献」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。

環境活動では、LED化、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進により環境負荷低減を進めるとともに、地域と共同で水源保持の為に植林活動を継続的に行っています。(2017年度18,000本)。

子ども支援として、従業員子女への就学支援、近隣の小学校の食堂・トイレ・飲み水等衛生施設の整備の導入・メンテナンスを行っています。

また地域貢献では、保健局と連携した生活環境改善支援、デイケアセンターへの支援、工場見学の受け入れ、従業員による清掃ボランティア活動等に取り組んでいます。

キューピーグループのKEY DATA

オープンキッチン(工場見学) 来場者数

対象：全国5工場+マヨテラス+ジャムデッキ

 約 **97,992** 人
(2017年度)

マヨネーズ教室開催数

小学生参加人数

 **328** 回
15,017人 (2017年度)

キューピーみらいたまご財団 支援団体数

 **20** 団体 (2017年度)